



PipeLine

特集 再編 共通教育

大学基礎論分科会

学問基礎論分科会

芸術分科会

課題探求実践セミナー分科会

人文科学系領域分科会

生活・社会科学系領域分科会

医療・健康・スポーツ分科会

自然科学系領域分科会

キャリア形成分科会

日本語・日本事情分科会

国際コミュニケーション科目分科会

複合領域分科会

No.64 Contents

特集 再編共通教育

P1

共通教育実施委員会からのお知らせ
全学・共通教育係からのご挨拶

P10

再編 共通教育

ネット／AI時代の「オリジナル」

共通教育主管 高橋 俊

これからの社会においては、(生成系) AIが、我々の生活を劇的に変えるといわれています。すでに活用している人もいかもしれません。学習においてもきわめて有用である反面、「レポートをAIで作成した」とような記事を見たことのある人も多いでしょう。もしかしたら「自分もやったことがある」という人もいるかもしれません。インターネット上の情報をまとめるのは、自分よりも、AIがずっと上手にやってくれる。レポートもAIを使えば楽勝。ネット上には、自分が書こうとしているテーマに関する文章や写真は山ほどあるし、それをAIに上手にまとめてもらえば、自分がやるより早いし、いい点数がもらえるんじゃないか？ こういう疑問(あるいは誘惑)を感じたことがある人は、少なくないかもしれません。

もし、AIを使っているのがあなただけなら、あなたがAIを使って作成した文章は「あなた独自のもの」になるかもしれません。しかし当然のことながら、あなた以外の多くの人々も、あなたと同じようにAIによって文章、あるいはスライドを作成しているのです。とすると、そこにあなたのオリジナリティはあるのでしょうか？ 自分こそがこの文章やスライドを作り上げたといえるのでしょうか？

「社会」で働くために必要な能力には、2種類あります。1つは、「みんなと同じこと」。PCのスキル、あるいは英語などがこれにあたります。オリジナリティは基本必要ありません。基準や標準が決められており、それに合わせる必要があります。もう1つは、「自分にしかできないこと」。個性やオリジナリティを発揮し、「替えの効かない存在」になることも、また重要です。AIは前者であり、後者にはなりえません。

AIをいついかなる時も決して使ってはいけない、というわけではありません。将来的に必須となる能力であり、正しい使い方を、大学4年間で



ぜひ学んでください。しかし、それに頼るだけではダメです。あなたが何を体験し、そこで何を感じ、何を考えたのかを、自ら言語化すること。それこそが、大学で学ぶ意味なのです。

そのために必要なのは、自分だけの経験や体験をすることです。あなたが自分の目で見たヒト・モノ・コトは、あなただけのものです。それを見て感じたことも、あなただけのものです。

共通教育では、見て、感じ、考える授業を、数多く開講しています。いわゆる「体験型」あるいは「実習型」の授業のみならず、「講義型」の授業も、こうした学習効果を得ることができます。そこで得た経験は、今後の人生で、きっと大きな財産になります。

とはいえ、たんに授業を取り、漫然と聞くだけでは、財産といえるものにはなりません。「自分がなぜこの授業を取ったのか」「この授業を取ったことで、何を得たのか」「そこで気づいた「自分に足りないもの」はなにか」等々をきちんと説明できてこそ、真の財産になるのです。

面倒くさい作業だなあと思うかもしれません。しかし、この面倒な作業を通じて、はじめてあなたの経験が「オリジナル」になるのです。個性が発揮しにくいネット／AIの時代だからこそ、自らのオリジナリティを、共通教育を含めた大学生活で作り上げてください。



大学基礎論分科会



大学基礎論分科会長 鈴木 保志

共通教育の諸科目の中でも、大学基礎論は、特に大学での学びにまだ慣れていない新入生（1年生）の方々を対象としている科目です。入学されて、4月の始めに行われるオリエンテーションは受けられたことと思います。このオリエンテーションでも大学での学修のすすめかたや履修科目の選択・登録の方法についての説明はされますが、半日程度という限られた時間でのものなので、我々教員としても伝えきれないことが多くあります。大学基礎論は、大学での学びに際して、心得や姿勢といった概念的なものから、課題レポートの書き方やグループワーク（討論）の仕方といった具体的なもののまでを、講義・演習を通じて身に付けていただくことを目的として設けられている科目です。

大学基礎論は学部、学科やコース毎に合計10個の実施単位別に実施され、後述するように専門分野の特徴が反映されます。そのため、シラバスを見ても実施単位のそれぞれで内容の詳細には異なるところもありますが、上に記しました「大学の学び」の基礎を身に付けるという目的・目標は共通しています。シラバスの授業計画に共通している内容としては、アカデミック・ライティングについての講義や、他者とのコミュニケーションをとりつつアイデアを出し合い意見をまとめる訓練としてのグループワーク、などがあります。また、卒業までの学びの動機付けのため、学部・学科やコースさらには各教員の教育研究内容を詳しく紹介したり、卒業後のキャリアと大学で学ぶことの関連性をイメージしやすくするために卒業生に講演をいただいたり、などの工夫がそれぞれの実施単位でなされています。さらに、グループワークで取り扱うテーマを、大学や学部の専門分野と地域への貢献に関連付けたものとする例もあります。

大学基礎論は必修科目なので、どの学生も必ず受講するものです。新入生の皆さんには、受け身ではなくぜひ積極的に、大学基礎論の受講というこの機会を利用して、皆さんの所属する学部や学科ならではの「大学の学び」を発見し、卒業に向けての継続的な学修の原動力としていただければ幸いです。

学問基礎論分科会

学問基礎論分科会長 小野寺 栄治

当分科会は、カリキュラム編成、受講生アンケート等に基づく自己点検・評価活動、シラバスの点検活動等を通じて、授業科目「学問基礎論」が実りあるものになるための大枠を整える役割を担っています。

共通教育再編に伴い、「学問基礎論」の科目区分は導入科目群の中の「大学での学びかた科目」に変わりました。とはいえ、2年次以降に本格的に学ぶ専門科目に向けての基礎的内容を担うという意味では、カリキュラム全体の中での位置づけは従来と大差はないでしょう。ただし、「大学基礎論」と「学問基礎論」の全学共通コンテンツ動画の活用方法の見直し等により、授業によっては内容や構成が前年度までと比べてより現状に即したものに改善されていると思われます。

この「学問基礎論」の教育目標は概ね以下の通りです。

- ・ 学びの姿勢を「教わる」から「学びとる」へ転換する。
- ・ アカデミック・ライティングの基礎を身につける。特に、日本語および日本語技法に関する意識を高める。
- ・ グループワークでの対話を通じて、コミュニケーション能力の向上を図る。
- ・ 研究倫理について理解を深める。

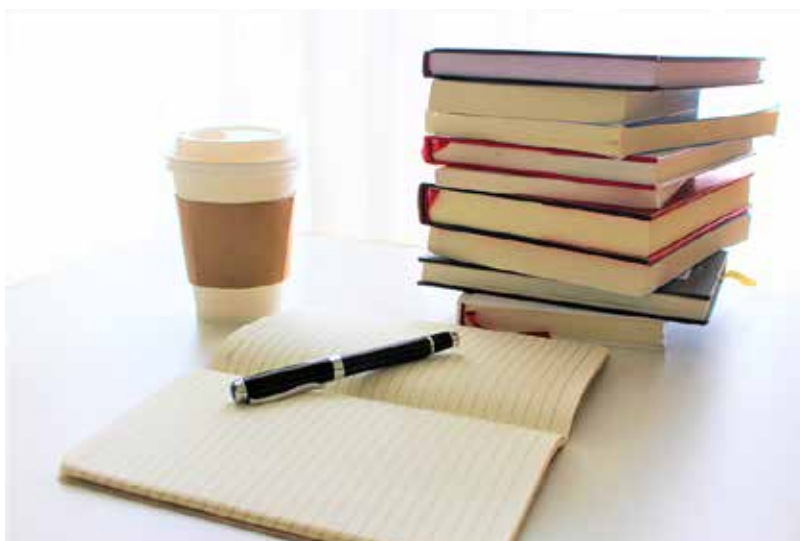
これらの目標の達成に向けて、各学部・学科において内容や担当方式等の詳細を決定したうえで、授業が行われています。私自身も今年度は数学の授業2回分を担当させていただく中で、グループワークの要素を多めに取り入れることを試みています。

ついでに私見を述べさせていただきますが、大学生の皆さんには、授業や研究を通じて

- ① 自ら課題を見付け
- ② 創意工夫を経てその課題の本質を理解したり解決したりして
- ③ その価値を他人に論理的かつ（正確性を失うことなく）わかりやすく伝える

ための力をつけていただきたいと期待しています。これらの能力は、在学中のみならず、社会に出てからも様々な場面で役立つはずです。私自身の研究活動においてもこれらの能力を高めることを大切にしています。（実際に十分な能力が備わっていると言われると、まだまだ道半ばですが。）「学問基礎論」での学びはそのための良い準備になると思います。

受講生の皆さんには、以上を踏まえたうえで、授業に意欲的に取り組んでいただくことを期待しています。



芸術分科会

芸術分科会長 阿部 鉄太郎

教養科目群のうち「生きる力を育む科目」の中に芸術があります。本学で学べる芸術には音楽と美術があり、どちらも人生を豊かにするものです。近年、義務教育さらに高等学校などで音楽・美術を学んだ後、社会人になってもそれらを学び続ける方が増えています。芸術には解が無限にあり、長い時間をかけて「こたえ」を導き出すという独特の世界が広がっています。そういった魅力が、多くの方の心を引きつけるのでしょう。芸術が生涯教育であることの意味がここに 있습니다。また、コロナ禍を経験した多くの方が、芸術の大切さを切実に感じたのではないのでしょうか。人間が人間らしく生きるためには、たとえば生活の中で友と陽気に歌い合い、ドキドキワクワクしながら皆で映画を鑑賞することが必要なのです。また、時にはそういった芸術を自分の中でより深く掘り下げてあじわう時間も人生のエッセンスでしょう。ですから本学で学ぶ皆さんが、これからの長い人生を心豊かに生きていくために、芸術の基礎教養はきっと有意義な学問であるといえます。

本学で教養科目の芸術を学ぶ際、専門的な実技経験は問いません。歌うことが好き、ピアノを弾いたり曲を聴くのが好き、民俗的な音色に関心がある、ポピュラー音楽について理論的に学んでみたい、トロンボーンってどうやったら音がでるの？日本画ってなに？ギリシャ彫刻や仏像のことが知りたい等。さまざまな興味関心にこたえられる教員が、皆さんをお待ちしています。

課題探求実践セミナー分科会

想像力をたくましく

課題探求実践セミナー分科会長 市川 昌広

私の大学時代はもう40年前にもなるが、当時でも今日の共通教育に当たる科目群はあった。教養科目などと呼ばれていた記憶がある。ろくに授業にもでない始末の悪い学生であったが、教養科目で今でも印象に残っている講義がいくつかある。

ひとつは授業の名前は忘れたが、自然地理学専門の教員の授業であった。当時はまだ、世間ではさほど話題になっていなかった地球温暖化についての講義であった。いわく、二酸化炭素など温室効果ガスが増えれば温暖化が進み大問題になると言われているが、そうはならない。温暖化すれば海などからの水蒸気や雲が増え、それが太陽光を反射するので、結局、温暖化は起きない。地球にはそういうフィードバック効果があるのです、という話であった。今日から見ればだいぶ分が悪い説ではあるが、その教員は楽しそうに自説を強調していた。

地球温暖化のネタでは、もうひとつ教養科目を思い出す。こちらも科目名は忘れたが、植物生態学の教員の授業であった。植物には適応力があるから、自然界での出来事が要因となる気候変動には何とか対応できる。種の散布などで徐々に生育場所を北上させるなどでだ。しかし、人為的な要因でもし予測通り温暖化が進めば、変化が急速すぎて植物も対応できなくなる。だから人間が移植などによって植物を移動させないといけない。今後、そのテーマを研究していくとまじめな顔で語っておられた。

地球温暖化についてさほど社会的な危機感が強くなかった時期に、そういった話題を先どって研究をしている学者の先見性に感心したし、いろいろな見かたや発想を提供してくれる他学部(私は農学系の学部だった)の教員のネタで想像を膨らませ、世の中の出来事を考えられる機会を与えていただいたのだなと今にして思う。

今日の学生の皆さんも共通教育の科目で多様なネタに触れ、想像力たくましくこれからの課題多き世の中を渡って行ってほしい。

人文科学系領域分科会

人文科学系科目だって魅力的！

人文科学系領域分科会長 渡邊 ひとみ

人文科学系領域分科会は、豊かな人間性と高度な専門性を備えた人材の育成を目標に掲げ、人間と文化に関わる領域において幅広い教養科目（哲学、心理学、歴史、文学など）を提供しています。近年では、日々の生活や将来の仕事（職業選択も含む）に「直接」そして「すぐに」役立つ知識を「効率的に」学ぶことに価値が置かれがちです。そのような視点からみると、人文科学系科目は「役に立たない」内容のように感じられるかもしれません。しかし、直接役立つ知識とは一体何でしょうか。人間は残念ながら5日後の自分を予測する能力すら持ち合わせていないわけで、そんな私たちが将来役立つことをどうやって正確に予測できるのでしょうか。

私は心理学を専門としていますので、心理学の授業を開講しています（そりゃそうだ）。毎年、多くの新入生が胸を躍らせながら授業を履修してくれます。「心理学を学んだら人のこころを読めるので、相手をコントロールし放題だ！」なんていう偏ったイメージを抱きながら…（微笑）。また一方で、「心理学は自分の生活とは関わりのない学問だ」と思いながら履修をする学生もいます。どのようなイメージがあるにせよ、多くの学生が「学問としての心理学」を学んでいく過程で予想外の面白さに驚き、魅了され、私たちの生活基盤をなす重要な学問のひとつであることに気付いてくれます。そして私は、このような学びの経験がとても重要だと考えています。

何を言いたいのかというと、「役に立つかどうかを判断しているあなた」は、実は知らないことだらけ」ということです。しかし同時に、この「知らないこと」こそが、皆さんの可能性でもあります。まだ知らないことが皆さんの世界や思考の幅を広げ、自分が本当に好きなこと・ものに気付かせてくれるはずですよ。そして、人文科学系科目はこの知らない世界への扉を開けてくれると私は考えています。焦る必要はありません。色々な授業を受けてみてから、将来役立つことは何かを考えてみてはどうでしょうか。

生活・社会科学系領域分科会

生活・社会科学系領域分科会長 新井 泰弘

読んで字のごとく、ここで扱う教養科目は「社会」や「生活」を主題としており、法律、経済、経営、政治などを学ぶことになります。本来であれば、この場で教養あふれるエッセイを連ね、皆さんを驚嘆させたいところですが、それは他の先生方にお任せし、私は一研究者として、こうした教養科目に関する所感を述べてみたいと思います。

新入生の皆さんは、これまで学校が定めたカリキュラムに沿って学習してきたことでしょう。しかし、大学では自分である程度科目を選び、専門性を高めることができます。一見すると、こうした目的志向の学びは「タイパ」や「コスパ」に優れ、短期間で成果を得やすいように思えます。

しかし、私の専門である経済学が示唆するように、「パフォーマンスを最大化する」ためには、まず「パフォーマンスを正確に評価できる」ことが必要です。もう少し言うと、何をしたらパフォーマンスが上がるかを理解する必要があります。しかし、実際には何が自分の成果や成長に影響を及ぼすかは、長期的には誰にも分かりません。

実際、ある研究に取り組もうとした際、思いがけず他分野で得た知見が役立つことがあります。起業を考えている学生にとって、過去の芸術家が残した言葉がヒントになることもあり得ます。私自身、海外の研究者と議論する際、日本酒や日本刀の製法、古典文学や宗教の歴史といった、いわば専門外の知識が大いに助けとなった経験があります。これらは短期的に経済学の知識向上を目的とした場合、学習の選択肢には含まれない分野です。

教養科目と呼ばれる幅広い科目群は、自分の専門領域を補完し、未知の可能性や思考の幅を広げる貴重な土壌だと言えます。長期的には、自分でも予期しなかった場所から芽が出て、大きな助けとなる可能性があります。是非積極的にこれまで自分があまり触れてこなかった分野の科目を履修してみてください。面白い自己投資になると思います。

医療・健康・スポーツ分科会

医療・健康・スポーツ分科会長 幸 篤武

2022年に発行された広報誌PipeLine 60号を読むと、「医療・スポーツ科学分科会」は、2020年度に「生命・医療分科会」と「スポーツ・健康分科会」が統合され現在に至っています」と書かれています。前回の統合からおおよそ4年が経過し、「医療・健康・スポーツ分科会」として再出発することになりました。この分科会で開講される科目は「生きる力を育む科目」として位置づけられており、文字通り、医療・健康・スポーツに関連する科目を学ぶことで、将来にわたってQOLを向上させることができるスキルを身につけてもらうことを目指す授業が展開されています。

2024年度では、講義科目として「スポーツ科学講義」「健康」「アルコール学概論」「一般学生のための医療と医学の知識」が開講されました。いずれも担当教員の研究内容などをベースにしたもので、自身の生活にすぐにでも応用、実践できる内容となっています。また医療・健康・スポーツ分科会では講義科目にとどまらず実技授業も開講されているのが、他の分科会と大きく異なる点といえます。実技科目は「硬式テニス」「体づくり」「卓球」「バドミントン」「ソフトバレーボール」「ローンボウルズ」「エアロビクス」「一から学べる筋力トレーニング」「剣道」「バスケットボール」「フットサル」を開講しました。共通教育ならではのようですが、同じ学部の学生さんだけでなく他の学部、例えば朝倉キャンパスに所属する学生さんにとっては、岡豊や物部キャンパスに所属する学生さんと一緒にスポーツを行うことになります。普段交流する機会の少ない学生さんと爽快感、達成感や喜び、連帯感などを共有することは、学部で開講されている授業では味わうことのできないものといえます。

本分科会の科目は一般教養科目でもありますが、受講している学生さんはこの分野に興味のある学生さんが多い傾向にあります。この分野になかなか興味を持てない学生さんも受講を考えてみませんか。

キャリア形成分科会

キャリア形成分科会長 斉藤 雅洋

令和7年4月1日から施行される「高知大学におけるキャリア開発の基本方針(案)」は、「生涯にわたって社会で活躍し続けるために、自らのキャリアについて『教育育てられる』という意識から『主体的に取り組む』意識へと変革を図り、『キャリア自律』の基礎的な力を身に付けられるキャリア開発の取組を強化する必要がある」とし、全学的なキャリア開発の推進を掲げています。そして、共通教育においては、導入科目群と教養科目群でキャリア開発を実施することとしており、共通教育実施委員会の役割のひとつに、「教養科目群の生きる力を育む科目において、『10+1の能力』(主に対人及び対自己のカテゴリーに分類される能力)の修得支援に資するキャリア開発に関連する科目を開設する」とあります。キャリア形成分科会は、全学教職委員会、資格教育委員会、SUII推進室とともに、共通教育実施委員会において、この「キャリア開発に関連する科目」を所掌する分科会として位置づいています。

「キャリア形成」に分類されているこの共通教育科目群は、教員免許や学芸員の資格取得のための科目、海外への留学を念頭に置いた実践的な英語が学べる科目、地域理解や異文化理解を深めるための科目、ITの活用やプレゼンテーションスキルの習得のための科目等、たいへん多岐に渡ります。しかし、共通していることは、フィールドワークやサービスマーケティング、インターンシップ等の「教育育てられる」という意識から「主体的に取り組む」意識へと変革していくための教育方法を用いて授業が展開されているということ、そしてライフキャリア(職業キャリアのみならず、家庭、地域活動、趣味などの個人活動など人生全体における役割や経験の積み重ねなどを総合した「生涯を通した生き方」)から、将来の職業キャリアの開発へと橋渡しする役割を担っていることにあると思われます。

キャリア形成分科会の主な活動は、学生のキャリア形成に寄与するプログラム開発の検討と、キャリア形成科目のカリキュラム編成およびシラバスチェックです。シラバスチェックでは、自己点検・自己評価部会と連携し、学生の皆さんに授業科目の重要性やおもしろさがわかりやすく伝わるよう、「シラバスチェック項目」にそって点検を行っています。

自然科学系領域分科会

自然科学系領域分科会分科会長 藤代 史

みなさん、こんにちは。自然科学系領域分科会は、大学で初めて受ける授業のひとつである共通教育教養科目の中で、自然科学に関連する授業を担当しています。もしかしたら、高校までの授業で「科学って難しそうだな」と感じた人もいるかもしれませんが、でも心配はいりません。「自然科学って何？」という基本的な授業をはじめ、私たちの身の回りの生活に関することや地球・宇宙規模の現象を対象とした幅広いテーマについて考える授業もあり、科学を身近に感じながら、みなさんの視野を広げられるような授業を提供しています。

自然科学には、物理学、化学、生物学、天文学、地学などがあり、広義にはそれらを実生活へ応用する分野（工学や農学など）を含むこともあります。また、数学は、これら自然科学を記述するための道具として重要な役割を果たしています。この分科会では、単にそれらの理論を学ぶだけではなく、科学を通して「世界の見方を広げる」ことを目指します。例えば、『大学数学へのいざない』や『物質の科学』、『生命の科学』といった物事の真理に迫る授業から、『フードサイエンスの世界』や『海洋を考える』、『大地（もしくは、「地震」や「気象と波」）の災害』などSDGsや地球環境問題について考える授業があります。また、『〇〇学入門』（1単位）として、高等学校で物化生地の基礎を学べなかった学生を対象とした、いわゆるリメディアル教育も用意されています。

大学で自然科学を学ぶときに大事なのは、「答えを覚えること」ではありません。むしろ、「どうしてそうなるの？」という疑問を持つことであり、そして、その答えを科学的に考える力を身につけることです。自然科学は、未知への探究心を刺激する学問です。ここでの授業が、みなさんにとって「科学って面白いな」と感じるきっかけになることを願っています。一緒に、身の回りの世界を新しい目で見ていきましょう！

日本語・日本事情分科会

日本語・日本事情分科会長 大塚 薫

日本語・日本事情分科会では、「日本の社会や文化に対する理解を深め、日本語の『話す・聞く・読む・書く』の4技能を磨き、自己表現能力の向上を目指す」という教育目標の下、外国人留学生及び外国において相当期間中等教育を受けた学生に対する「日本語」Ⅰ～Ⅲ、「日本事情」Ⅰ～Ⅳを開講しています。「日本語」は外国語に、「日本事情」は教養科目に替えて履修することができます。「日本語」科目の授業形態は、「外国語」科目同様「演習」形式で、2コマ/週×16週間で2単位の修得となります。「日本事情」科目は、「講義」形式で、1コマ/週×16週間で2単位が修得できます。

「日本語」科目並びに「日本事情」科目は、正規生として各学部に入学者の留学生を対象として設定された科目です。正規留学生は、日本人学生と同じ教室で机を並べて一般教養や専門知識を学ぶとともに、教室でのディスカッションやレポート、プレゼンテーション等の課題も日本人学生と同様にこなしていかなければなりません。授業内容を理解し議論に参加し単位を修得していくためには、アカデミックな日本語のスキルが求められています。このようなアカデミックな日本語力を身につけていくために「日本語」科目では、日本語の4技能を磨き、特に自ら調べ考え論理的に発表できる能力の育成を心がけています。また、「日本事情」科目は、日本及び高知に関する社会、文化、生活習慣等を通じて日本社会や日本人について自国の文化と比較しながら多角的に考えさせる内容になっています。

折に触れて、日本や日本語に関する講演会や協定校を繋いだセミナーへの参加、日本人学生及び学外の地域住民との交流を図る活動も授業の一環として取り入れています。異文化に触れるこれらの活動を通して日本語の運用力の向上を図るとともに、日本への理解も深まり、自文化との比較による論理的な意見の発信に繋がることを目指しています。

国際コミュニケーション科目分科会

国際コミュニケーション科目分科会長 西尾 美穂

共通教育では、英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・韓国語(朝鮮語)の6つの外国語の授業が開講されています。英語については、これまでに長い学習経験がありますね。「大学英語入門」や「英会話」の授業で英語の実力に磨きをかけてください。一方で、英語を除く5つの言語は、初めて学ぶ言語でしょう。どんな言語文化に出会えるか楽しみですね。

もしかしたら、「AI時代に外国語を学ぶ意味はあるの? スマホが1台あれば日本語でコミュニケーションできるじゃん。」と思う人がいるかも知れません。確かに、言語をコミュニケーションの道具としてだけ捉えるならば、自分の語学力よりAI翻訳の方が…と思われるかも知れません。しかし、言語にはその言語を話す人の世界観や発想が現れるという面があります。そして、外国語を学ぶことによって自分とは違う世界観を持ち、自分とは異なる発想をする人々がいるのだということを知ることによりAI時代の外国語学習の意義を見出すことができます。その意味では、新しく学ぶ外国語との出会いこそ、大学での外国語学習において重要なのだと思います。

今回は、中国語とドイツ語の先生にそれぞれの言語を学ぶことに対する思いを書いていただきました。ぜひ読んでください。

(西尾 美穂)

中国語

中国語は、日本語と同じく漢字を使用します。ゆえに、書けば／書いてもらえば、ある程度は意思疎通が可能です。しかし話し言葉は、日本語とは大きくかけ離れています。私の名前は日本語では「たかはししゅん」ですが、中国語の発音をカタカナにすると「ガオチャオジュン」に近いでしょう。語順も、英語と同じく「主語 - 動詞 - 目的語」です。「近くて遠い言語」である中国語は、奥深い、学びがいのある言語といえます。ぜひ、一度触れてみてください。

(高橋 俊)

ドイツ語

日本からは地理的に遠く離れているために、大学でドイツ語を履修するまえに、実際にドイツ語圏に足を踏み入れたことがある人は少ないかと思います。しかし一方で、ユーロ圏における政治的・経済的リーダーシップの是非、エネルギー政策の大転換を中心とした環境問題への取り組み、移民政策と歴史認識のあり方など、常にアクチュアルな問題とドイツは向きあうことで、私たちにも大きな影響を与えています。教養科目としてのドイツ語の授業では、読み、書き、聞き、話すために必要なドイツ語の運用能力を総合的に習得するだけではなく、ドイツ語圏の国や地域に関する歴史・文化・社会の知識(Landeskunde)を学ぶ機会を多く作り、高知でもドイツ語を楽しく学びつづけられる動機づくりをしています。

(土屋 京子)

複合領域分科会

複合領域分科会長 俣野 秀典

グローバル化の進展、社会産業構造の変化、人口急減・超高齢化といった社会状況の急速な変化が進む現代社会において、単独あるいは少数の専門分野の知による課題の発見・解決がますます困難になってきています。そのような状況を受けて、特定の領域に寄っていない、従来の枠を越えた「テーマ型」「文理横断/融合型」の学びの機会として、2024年度に新設された区分が「複合領域」です。

2024年度は以下の10題目を開講しました。

現代社会の諸問題
高知の人と企業を知る
土佐の海的环境学Ⅰ：柏島の海から考える
障害者支援の理論と実践
動画作成セミナー：高知の企業の魅力を伝えよう
国際協働入門
地域防災入門
自由探求学習
学びを創る
「学問は楽しい」を実感する



課題の多様化・複雑化が進んでいる中、新たな価値を創出するカギは「他者との協働」にあると言われています。「自分から他者へ」「他者から自分へ」「自分からグループへ」「グループから自分へ」といった関係性の質が成果を左右するということです。そしてこれらの基盤には、現状や結果を振り返って自分と対話する省察「自分から自分へ」があります。そのような学習経験を提供するために、授業では少人数のグループワークが学習方法の基本に据えられています。そして、これまでの経験や知識を総動員しながら対話・議論をしていきます。

高知大学には多様な価値観・特性・能力をもった学生が在籍しています。さらに、共通教育科目はすべての学部生が受講します。「複合領域」は、多様な他者と交流できる場を提供し、さらにその環境を活かして新たな価値を生み出す力を涵養していこうという野心を持っているとも言えるかもしれません。

最後に私が担当している複合領域科目の学生コメントをいくつか掲載しておきます。

- ・本当に勉強になる授業だと、グループワークを通して感じた。
- ・他学部・他学科の人との交流や、自分と違う捉え方・考え方に多く触れることができた。
- ・相手の考えを引き出す機会が多く、自分としてはとても満足のいく授業だった。
- ・楽しみながら、これから必要になる問題解決能力の基礎力を身に付けることができるから。
- ・他学部の人たちと一緒に協力して一つの目標を達成するために活動を進めていく中で、話し合いの時など人との考え方との違いを感じて、自分の意見の伝え方、アイデアの出し方について学ぶことができた。
- ・答えがない課題について取り組む中で、お互いの意見を尊重することを意識することができた。
- ・違う学部の人や普段話すことの無い人と交流ができた。
- ・グループによって自分の役割が変わったり、いつのまにかそれぞれが適役を担っているのが見ていて面白かった。
- ・毎回振り返りができて自分だけでなく相手の考えも考え直すことができてよかった。
- ・周りの意見をしっかり聞くことで、自分にはない考え方・価値観を知ることが出来、良い刺激になりました。
- ・どんな意見でもとりあえず出してみようと思うようになりました。
- ・もし後輩ができれば一番にお勧めしたい授業。
- ・自分よく頑張ったぞ！楽しかった！
- ・本当に私は人に恵まれていると思う。周りには私と違う世界を持つ人がいて、それを見て私は成長できる。面白いことも困難なことも一緒にできる。私と一緒に進んで行ってくれる。そんな人とこの授業で出会えてこれからの大学生活が明るい。

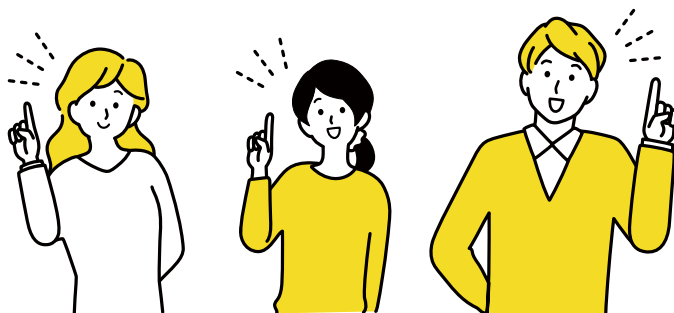
全学・共通教育係からのご挨拶

学務部 学務課 全学・共通教育係 光成 優衣

はじめまして。私は令和6年9月に採用されました、学務課全学・共通教育係の光成と申します。

突然ですが皆さんは、卒業に必要な単位を計画的に履修・修得できていますか？履修案内を読み込み、身近な方と相談したり、窓口で相談に来たりしながら目標に向かって励んでいる方が多いのではないかと思います。

そんな皆さんの中には、卒業要件の単位を満たすために、関心がない科目を履修する方もいるのではないのでしょうか。私には、そういった経験があります。しかし、いざ授業を受けてみると、休日に関連する場所へと足を運ぶほど夢中になったり、その学びが、自身の専門分野に活かせたりするということがありました。また、共通教育科目は専門科目と比べ、様々な学部と学生と共に受けることが多いです。実際に他学部の学生との意見交流の際に、同学部の学生とは違った視点や考え方に触れ、自身の視野の狭さに気づききっかけとなったこともあります。



このように、共通教育科目は、新しい世界との出会いだけではなく、専門分野への学びにもつながったり、視野が広がり、より多角的な面から物事を捉えられるきっかけとなったりもします。そのため、時間割や卒業要件の関係から、気が進まない科目を履修する必要がある方も、ぜひ前向きな気持ちで臨んでいただけたらと思います。

最後になりますが、大学生活において困ったときは、私たち事務職員が力になりますのでお声がけください。高知大学には相談窓口もございますので、利用することもおすすめします。

(高知大学窓口案内URL : https://www.kochi-u.ac.jp/campus/life/gakusei/gakusei_madoguti.html)

皆さんが学び多き大学生活となるよう、事務職員としてサポートしていきますので、これからよろしくお願いいたします。



編集後記

いよいよ高知大学の共通教育も改革が進み、新体制に移行しました。それを記念するかのようには本64号も発行されました。今回は、新体制始動に伴う特集号としての位置づけとなります。豪華に、主管を筆頭に、全ての分科会の長の先生方にご執筆いただきました。かつてないほどの充実した内容になっていると確信しています。新入生はもちろんのこと、その他の学生に向けた学びのサポートとして是非ご一読ください。(S)

高知大学共通教育広報誌 [バイブライン]
PipeLine No.64

発行 / 高知大学共通教育実施委員会
編集 / 共通教育実施委員会広報部会
〒780-8520 高知市曙町2丁目5-1
☎088-844-8168 (学務課全学・共通教育係)

発行日 / 2025年4月
制作 / 南西村謄写堂

☐ 広報・記事についてのご意見をお待ちしています。
Mail : gm06@kochi-u.ac.jp